

国際サーカス村通信	VOL.19 N004	2015年 4月 17日 (金)
		文責 西田 敬一
編集 NPO 法人国際サーカス村協会	〒376-0303 群馬県みどり市東町座間 41-1	
Tel0277-70-5010 Fax0277-97-3688		http://www.circus-mura.net k-nishida@accircus.com

## ●ジャグリング・ボールの行方

ジャグリングのボールは、ジャグラーの手から離れるとどこに転がっていくのだろうか。普通に考えると、ジャグラーはいくつかのボールでジャグリングをしているので、ボールを落とす場合、いくつかのボールが床に転がるにちがいないが、もちろんジャグラーがとりそこねたボールが一個だけという場合もある。それに、一般的に使われているジャグリングのボールはなかに砂などが入っていて、コロコロと転がらないようになっているので、落ちたその場所から遠くに転がっていくことはない。

しかしジャグラーが落としたボールがどこへ転がっていくのだろうか、という設問を用意すると、そのボールがどこかに転がっていくようであり、さてその先は、という疑問がわいてくるのではないだろうか。アニメーション的に映像化してみると、ジャグラーの手からぼろっと落ちたボールは、床を転がり、その先で外に転がっていき、不思議なことに、坂道をのぼっていったりして、生き物でもあるかのように転がりつづけると、途中で出会う生き物や植物などとも、動きのコミュニケーションができるようになる気がしてくる。そこに擬人化されたボールの旅が生まれる。

と、そんなことが頭を掠めているのだが、というのも、最近、活躍しているジャグラーの多くがステージでのショーをつくるようになっていて、そのいくつかを見せてもらったが、それぞれにアートのというか、ジャグリングの高度の技術のみせるだけではなく、独自の技に加えて身体的な動きを取り入れた、新しい分野を拓きつつあるなど印象をもったからである。で、そのことについて思いを巡らしているうちに、ひとつのジャグリングのボールの行方という設問がでてきたのである。

もう少し、浮かんできた設問の先を考えてみると、ジャグリングという技のむこうには何か潜んでいるのか、それとも、なにも隠されていないのかという疑問に辿りつくことになる。多分、何も隠されていない。確かに、高度な技のジャグリングを見て感動することはあるが、それが神技といわれるほどのものであっても、多分、何も隠されていないのだ。

蹴鞠という、日本古来の宮廷で行われていた貴族の遊びがある。その蹴りつづけられた鞠に、蹴鞠の神様がおりてくるという話がある（この話しについては、ここで述べると長くなるので省略する）。果たして、西洋お手玉ともいわれるジャグリングにも神様がいらっしゃるのだろうか。多分いないだろうし、また神様が降臨するまで玉を投げつづけている現代のジャグラーはいないにちがいない。

実は、視えないものを視えるようにするというか、視えている現象のむこうに何があるか。それを可視の世界に引きずり出すにはどうしたらいいのかという観念に今は憑りつかれている。多分、それは、視えているものの構造を明らかにすることに通じると思えるので、とりあえず、ジャグリングを取り上げてみたのである。そして、ジャグリングという技の向こうには、何も隠されていないにしろ、転がりだした一個のボールが何かを語り始めることは否定できない気がしてならない。

今は、そいつを追いかけよう。（西田敬一）

## ●サーカス学校恒例 ナージャ先生のワークショップは6/15～20（土）

毎年恒例ナージャ先生のワークショップを、今年も行います。スポーツアクロの元世界チャンピオンであるナージャ先生に、マット運動、筋トレ、ストレッチなどあらゆるサーカス芸にとって基礎となるからだづくりを指導してもらいます。また、興味のあるサーカス芸にも挑戦していただけます。

ごはんは校長先生の美味しい手料理です。群馬の山の中で、ひたすら練習に没頭する日々を送りませんか。

※全日程参加できない方は、希望期間をお伝えください。

◆場所 沢入国際サーカス学校 体育館（群馬県みどり市東町沢入 491）

◆練習可能な演目；トランポリン、空中芸（ティシュー、リング）、ジャグリング、ローラーボーラー、ハンドトゥハンド、ジャーマンホイール、アクロバット

◆参加費 全日程の場合 4万円（1日単位；8,000円）  
（ワークショップ費、宿泊費、朝&晩の食事代、保険代込）

◆持ち物 トレーニング着、トレーニング靴、普段着、常備薬、洗面用具、タオルなど

◆募集人数 10名程

◆連絡先 国際サーカス村協会東京事務局 担当；長屋  
TEL03-3403-0561 メールアドレス；a-nagaya@accircus.com

## ●サーカス学校 夏の発表会は7/18（土）、19（日）に行います。

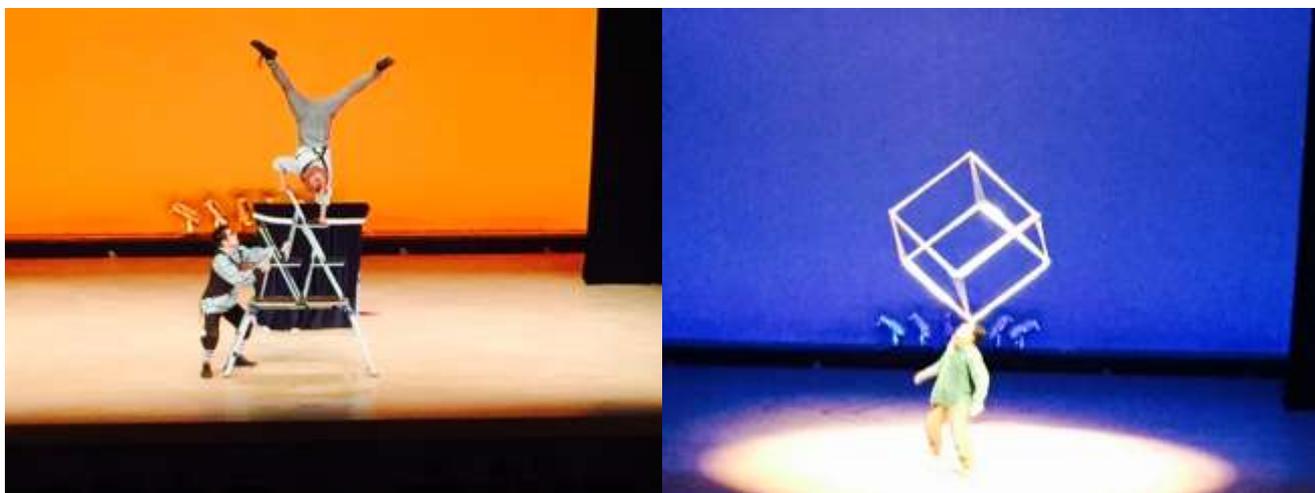
生徒たちの日ごろの練習の成果をご覧ください。みなさん、ぜひお誘い合わせのうえお越しください。

◆時間 7月18日（土）15:00、19日（日）12:00 ◆場所 沢入国際サーカス学校 体育館

◆観覧無料 カンパ大歓迎です！

## ●「東毛地区学童保育 春の交流会」にてショーをしてきました

3月30日（月）にサーカス学校卒業生、在校生計10名によるショーをしてきました。約400名の子どもたちが集まり、盛り上がりました。ありがとうございました。



## ● 沢入国際サーカス学校 卒業生・出身生インタビュー

③ 目黒有沙 (2008年入学・2012年卒業)

### ◆ 卒業後の進路

ケベックサーカス学校 (カナダ・ケベックシティ) 進学。現在3年生。

### ◆ 今やっていること

コントーション、ティシューループ、グループダンス等々を学んでいます。

### ◆ 簡単なプロフィール

東京都出身。高校を卒業後、沢入国際サーカス学校に入学。4年間コントーションを専門としながら、ハンドトゥハンドやジャグリング等のサーカス技術を学ぶ。基礎習得後、さらに高い技術・表現力を身につける為、カナダに渡り、ケベックサーカス学校 (ケベックシティ) 入学。

### ◆ 在学中の思い出

私が入った頃は学校の歴史の中で一番人数が多かった時期で、卒業生・在校生合わせて二十数名いました。夏の発表会にも大勢の人達が観に来てくれたし、東京で公演をしたりしていて、学校としての活動がとても活発でした。ですが、段々人の数が減って行って私が4年生の時は生徒がたった4人になっていました。以前は手狭に感じていた体育館はとても広くて寂しく感じたのを覚えています。(注;現在は入学見込み者を含めて8名になっています)

### ◆ 在校生へのメッセージ

人数が減って寂しかったと書きましたが、それは同時にチャンスでもあるのです。なぜなら私達にはナージャ先生という素晴らしい先生がついています。もし、あなた達が高いモチベーションを持って臨めば先生は必ずやそれに応えてくれるでしょう。目標をしっかりと持って頑張ってください。(目黒有沙)



写真(左)ケベックサーカス学校でハンドトゥハンドの練習中、上が目黒。(右)2009年発表会時。

当協会 FaceBook ページ <https://www.facebook.com/circusmura>

#### ④ 谷口界（2009年入学 2011年まで在学）

##### ◆卒業後の進路

コンテンポラリーダンスや舞台に興味を持ち舞台芸術の学校P.A.I.に入学。

##### ◆今やっていること

東京で大道芸をしながら舞台を中心に活動しています。

舞台では現代サーカスの様なものからダンス、芝居、更に演出と様々な事にチャレンジしています。

##### ◆簡単なプロフィール

1987年生まれ。京都出身。幼い頃より器械体操を学び、20歳の時に独学で大道芸を始めた後に、沢入国際サーカス学校にて逆立ち芸やジャグリングを学ぶ。在学中に『東京国際フル祭』『勝ってたまるか剣振丸』等の公演に参加したことから舞台やダンスに興味を持ち、2012年「舞台芸術の学校P.A.I.」（東京都中野区）に入学。2年間コンテンポラリーダンスや舞台演出を学ぶ。

現在はフリーのパフォーマーとして活動する傍ら、小池博史ブリッジプロジェクト『銀河鉄道』『風の又三郎』ツアーに参加するなど、大道芸から舞台まで幅広く活動中。

また、2013年にサーカス学校出身者で結成されたサーカスカンパニー「イル・スペオピーレ」旗揚げメンバーとして、舞台公演『EVOKE』に出演。アクロバットや倒立の指導も行っている。

##### ◆在学中の思い出・在校生へのメッセージ

サーカス学校ではとても濃厚な時間を過ごしました。あれほど練習に没頭出来る場所は他にはありません。そしてナージャ先生というサーカスの名門キエフのサーカス学校で指導していた素晴らしい先生もいらっしゃいます。僕は、今は東京に出てきています。情報量が増え、たくさんの事を学んでいますが、正しく取舍選択が出来ないと中途半端なパフォーマーになる恐れがあるなど最近感じます。

サーカス学校ほど良い意味で盲目になれる場所はないと思います。今の社会は情報量が多過ぎて頭でっかちになりがちです。敢えて一度情報を遮断し、一つの事に没頭してみるのはいかがでしょうか。

それにはサーカス学校はうってつけです。何しろ練習以外にやる事ないですから。本当に。（谷口界）



写真（左）2010年『勝ってたまるか剣振丸』花田清輝『小説平家』出演時（シアターX）。（右）2009年夏の発表

## ●メルボルン・インターナショナル・コメディ・フェスティバル 2015

メルボルン・インターナショナル・コメディ・フェスティバルは、1987年から毎年オーストラリアのメルボルン市街地で開催されており、エジンバラのFRINGE・フェスティバル、モントリオールのジャスト・フォー・ラフとともに、世界三大コメディ・フェスティバルのひとつとされています。

以前から興味はあったのですが、なかなか訪れる機会がなく、今回はこのフェスティバルに参加する、加納真実さんというパフォーマーのお手伝いで、3月31日～4月10日の旅程で行ってきました。



メルボルンはオーストラリアの南に位置する、ビクトリア州の州都です。日本とは季節が逆で、今回訪れた季節は秋。メルボルンの気候は、1日に四季があると言われるほど、1日の気温差が激しく、日中23度ぐらいでも、朝や夜は3度ぐらいになったり、突然雨が降り出したり、突風が吹いたり、体温調整が難しい気候です。そのせいか、現地の人たちの服装はいろいろで、冬物のコートを着ている人もいれば、ランニングシャツの人もいました。

メルボルン・インターナショナル・コメディ・フェスティバルは、屋外で無料で観られるショーと、チケットを購入して観る屋内のショーとがあります。加納真実さんは、シティ・スクエアとフェデレーション・スクエアという広場に設置された屋外ステージでのショーです。遠くからも見えるようにという配慮なんだと思いますが、ステージ高が結構あったので、観客を巻き込んでいくタイプのパフォーマンスをする加納さんは、初日はだいぶ苦戦していましたが、2日目からは逆にそれをうまく利用していたのは、さ



すがでした。パントマイムですので、しゃべらないのですが、その代わりに、時々言葉を書いた画用紙を観客に見せたりします。この言葉を、英語にするにあたっては、現地の方々に聞いて何度か変えましたが、日本的な感覚を伝えるのは難しく、加納さんの狙いとは少しずれたところもあったかと思いますが、それはそれで、日本の観客との反応の違いが、むしろ私には興味深く感じられました。どちらの広場も、いつもたくさんのお客さんが集まってくれ、このフェスティバルの人気のほどが伺えました。

雨天の場合は、どこか屋内で実施するという話で、どこでやるのか、お客さんはいるのかと少し不安でしたが、ショーの直前に雨がポツポツ降り始めたときは、スタッフがどこそこに場所を移して行るので、一緒に移動しましょう！と観客に声をかけると、殆どが加納さんの後に続き、そっくりそのまま、すぐ隣にあるタウンホールという、小さな劇場がたくさん入っている建物の一室に移動してくれました。この劇場のサイズがちょうどよく、屋外よりも観客の集中度が高く、とても盛り上がったよいショーになりました。

驚いたのは、スタッフが全員素晴らしい仕事をしていました。歴史が長いだけあり、組織もきちんとしており、事前のやりとりもスムーズでしたし、現地の舞台スタッフも、一度言ったことは忘れませんし、お願いしていたことはちゃんとやっておいてくれるし、時間も正確だし、今回はそういった意味でのストレスが、まったくありませんでした。

私は一足先に帰国したので、残念ながら観ることができませんでしたが、加納さんの最終日の4月12日は、HI-FIというナイトクラブで、「フェスティバル・ナイト」というものがあり、これはフェスティバル参加者数組が行うショーですが、加納さんはこのショーで、大トリをつとめました。一組10分なので、何をやるかぎりぎりまで迷っていたようですが、“仮面舞踏会”という、次々に観客にお面をつけて（今回は歌舞伎のお面が好評でした）、最後は大人数で大団円で終わるものにしたそうです。出番は11:00PMぐらいの予定が、押しに押しして、0:00AM過ぎになってしまったそうですが、会場は大いに沸き、大変な盛り上がりようだったと聞きました。アソシエイト・ディレクターのブリジット・バンティックさんから、「KANOのHI-FIでのショーは大成功だった！一般の観客だけでなく、ショーを見に来たコメディアンたちからも絶賛の嵐で、間違いなくこのフェスティバルの長い歴史の中でも、ベストのひとつだと皆が言っていた」という言葉をいただきました。試行錯誤しながらの海外公演が、こういったよい形で締めくくることができたのは、本当によかったと思います。

屋外のショーは、場所もよいところですし、無料ということもあるかと思いますが、常にお客さんがいました。屋内のショーは、ものすごい数のショーがあるので、劇評がでているものや、前評判が高いもの以外のショーは、毎日出演者がチラシを配ったりなどして、集客に苦労しているようでした。ゲスト以外は、参加費を支払っての公演なので、入場料の売上げが、懐に直接響いてきますので、必死です。そういった状況は、どこのフェスティバルでも同じと思いますが、このフェスティバルでは、チラシ撒きをする人たちが、どの人もとても丁寧で、どういう内容のショーかをひとりひとりに説明しながら、チラシを渡している姿がとても好感がもてました。

今回のフェスティバルで観た、室内のショーについて少し触れたいと思います。

<Head First Acrobats>

オーストラリア出身の男性3人による、アクロバットをベースにした作品。医療実験室で、飲むとなんでもできるようになる万能薬の研究をしているという設定で、ドタバタ・コメディにハンドアクロバット、梯子アクロバット、シルホイールなどをうまく使っていたと思います。ただ、やりたいことをたくさん詰め込み過ぎている感が否めず、途中ちょっとボンヤリしてしまいましたが、爽やかで好感のもてる青年3人を、観客は応援しているようなよい雰囲気でした。



会場は、メルボルンの中心地から、トラムに乗って、港近くの複合施設の中に建てられたシュピーゲルテント。初めてのトラム。しかも有料区間まで（中心地は無料）ということもあり、迷いに迷って、30分ぐらいの距離のところ、1時間以上かかってたどりつきました。終演後、テントをでたところで、「マミ！」と叫ぶ声が聞こえ、見てみると黒人男性が、加納さんの“仮面舞踏会”の踊りを、そっくり、しかも正確に踊ってみせてくれました。「とっても、よかったよ！」と言ってくれ、とても気持ちがあたたかくなりました。

### <Puddles Pity Party>

今回の大ホームラン的なショーですが、身体表現ではなく、歌がメインです。まさにゴールデンボイス。白塗りのクラウンの格好で、2m ぐらいありそうな大きな男性が、バースデーソングで観客と絡みながら、メランコリックな歌を歌います。歌がメインとはいえ、一切しゃべりません。動きや演技、間の取り方は絶品で、例えば、観客を舞台にあげ、横に立たせ、ちょっと待ってという仕草とともに、口の中のガムをだそうとしますが、まだ噛みたい、でも、待たせちゃ悪い、いやもうちょっと噛みたいかな、というただこれだけのことが、とても面白く、2回も観に行っていました。後で説明を読むと、アメリカ、アトランタ出身。Lorde というニューージーランドのシンガーソングライターの”Royals” という曲のカバーが、Youtube で 1000 万回を超える再生回数を記録し、エジンバラや、モントリオールのフェスティバルでも、大人気だったそうです。



### <Ongals>

韓国出身の男性 4 名によるコメディ。Bubbling Comedy という説明の通り、意味のない赤ちゃん言葉でわめきながら、おもちゃ箱から、様々な物をだし、その物を使ってマジックやジャグリングなどもいれつつ、コメディが展開していきます。とてもテンポがよく、それぞれのキャラクターもはっきりしており、楽しいショーでした。後半は、ヒューマン・ビート・ボックスをメンバーのひとりが行い、これがまたうまかったのですが、この音をうまくいれて、こどもたちが大好きなおナラの音なんかもいれつつ、とても盛り上がっていました。会場は、中心地にあるアートセンターの敷地内に建てられたシュピーゲルテント。先の“Head First Acrobats” は、円形ステージをうまく活用していましたが、Ongals はステージを組んでいました。昨年は屋外で参加し、今年は屋内での参加だそうです。ご本人たちに聞いたところ、2011 年に日本公演を行う予定だったそうですが、3 月 11 日の震災でキャンセルになり、それっきりになってしまったということでした。メンバーのひとりには日本が大好きで、時々ひとりで旅行に来ているそうです。このフェスティバルが終わったら、お母さんを有馬温泉に連れていくんだと言っていました。年齢も国籍も選ばないショーなので、近いうちに日本でも観ることができるかもしれません。



### <Trash Test Dummies>

オーストラリア出身の 3 名の男性による、ゴミ箱を使ったアクロバットコメディ。とてもシンプルで、スピード感もあり、楽しいショーでした。こども向けのショーというくりだったせいか、最後は散乱したカラーボール等を、こどもたちに拾わせ、「ちゃんとゴミはゴミ箱にいれようね、たくさん入れた人が勝ちだよ」と言うと、こどもたちは、喜々として片付けていました。とはいえ、おとなも十分に楽しめる内容だったと思います。



### <笑福亭笑子>

メルボルン在住の、上方落語家で腹話術師。シンガポールでラジオのパーソナリティーとして活動していた頃、取材で訪れた落語会で見たと、笑福亭鶴笑氏のパペット落語に感動し弟子入りしたという変わり種。ご主人がメルボルン出身ということもあり、現在はメルボルンに在住し、パペット落語や、英語落語、腹話術を使った落語に取り組んでいます。



今回メルボルンで会った、三味線漫談の恩田えりさんがショーのお手伝いをしていた縁もあって、こどもむけのパペット落語を観にいきました。舞台には高座と見台があり、笑子さんも着物。落語という日本の文化を説明しながら、忍者ケンというパペットを使い、腹話術で物語が進行していきます。自作のスシスキ・ソングもとても愉快で、こどもたちには大受けでした。とてもわかりやすい英語でしたので、日本でこのままやっても、うけるのではと思いました。13日からは、おとな向けの英語落語をやるということでしたが、残念ながらこれは観ることができませんでした。

### <Jessica Aprin>

屋外で行われたショーですが、スイス出身の女性が自転車芸で見せるショーで、自分の結婚相手を見つけ、結婚式にはイタリアやスペイン、フランスなどから、親戚がやってきて、てんわやんやというストーリーで、語学に堪能なジェシカは、様々な言語を駆使し、エネルギー全開のショーでした。小柄でとてもかわいらしい、みんなの妹のような女性で、とても人気を集めていました。



ショーの盛り上げ方もうまく、自転車の技量も高いものでした。日本語も少しでき、驚いて聞いたところ、鹿児島で行われた自転車の大会に行ったことがあり、日本が好きで、弟も日本語を勉強しているからということでした。彼女も、日本に来る日はそう遠くないかもしれません。

見逃して悔しい思いをしたのが、ニュージーランドの、Trygve Wakenbshaw という人。

どう読むのか、いまだ分かりませんが、サイレントコメディで、動きが素晴らしく、本当におもしろいと、誰もが絶賛していました。スタンダップコメディ（西洋漫談）が8割近くを占める中、私にとって観なくてはならないもののひとつだったのですが、日程があわず、とうとう観ることができませんでした。どこかで観る機会があることを、祈るのみです。



今回は、思わぬ人との再会もありました。

カンボジアで出会った、フラフープのカナダ人女性ベッキー。彼女はこども向けのプログラムで参加していましたが、ご主人がシルク・ドゥ・ソレイユの“TOTEM”でクラウンをされており、メルボルン公演を行っているところでした。加納さんとは、静岡の大道芸ワールドカップで会っていることもあり、いろいろと気にかけてアドバイスをしてくれました。“TOTEM”は、2016年2月から日本に来るそうなので、また東京で会えることでしょう。

そして、お互いに2日間ほど気付かなかったのですが、20年ほど前に日本に招聘したオーストラリアのクラウン、アシャー。この世界は本当に狭いです。アシャーは今回は奥さんと“Peter & Bambi Heaven”という名前が出ていたせいもあり、気がつくのに少し時間がかかりました。お互いに年もとっていますし…。このアシャーは、フェデレーション・スクエアでのショーではMCで、転換部分に登場。そのひとつに、レスラーが着るような衣装で登場するシーンがあり、彼が後ろを向くと、お尻の部分が丸く切られていて、というジョークなのですが、驚くことに、これに対してクレームが殺到したとのことでした。オーストラリア人、案外保守的なところもあるようです。

メルボルンはとにかく人が親切です。

道に迷えば、むこうから「どこに行きたいの？」と、声をかけてくれますし、自分が知らないところでも、他の人に聞いてくれたり、親身になってくれます。それもこれも、多様な国籍の人が住み、多様な文化が混在しているからなのでしょう。

とはいえ、それを好ましく思わない人もいるというのが、ある日の抗議行動でわかったのですが、それは、反イスラム・反移民政策の人たちのデモを、それに反対する人たちが取り囲み、警察も多数動員された、一触即発な雰囲気での抗議行動でした。昼前から始まり、夜まで続いたようです。

私が帰国した翌日には、アボリジニのコミュニティ閉鎖への抗議行動が、かなり大規模に行われたようです。

おおらかに見えるオーストラリアの人たちも、ちょっと話をふると、現政権への不満を訴える人が多く、日本はどうなのとふられると、こちらも日本の不満をぶちまけ、いずこも同じねと、ため息をついたりもしたのです。



何かと縁のあるオーストラリア。次回はいつ行けるのか、楽しみです。（大野洋子）

※演者写真は公式ウェブサイトより引用 <http://www.comedyfestival.com.au/2015/season/>

## 最新サーカス公演情報

### ★木下大サーカス

●金沢公演 公演期間 2015年4月25日（土）～2015年6月29日（月）

●休演日；毎週木曜日と5/15（金）、5/16（土）

●会場；西部緑地公園内 特設会場 ●電話；金沢公演事務局 Tel.076-260-0045

### ★ポップサーカス

●相模原公演 公演期間 2015年4月25日（土）～2015年6月14日（日）

●休演日；毎週木曜日 ●会場；淵野辺公演隣接地 特設大テント ●電話；相模原公演事務局 Tel.042-786-6444

★エキスポ・サーカス

愛・地球博から10年…。あの感動がかえってきます！4カ国9名のアーティストたちが繰り広げるステージはまさに万博☆それぞれの文化が光る。エキスポの魅力満載のサーカスショーをお楽しみください！※入館料のみでご覧いただけます。

●公演期間 2015年3月14日(土)～2015年6月21日(日)

●公演時間 平日：11:30/14:00、土日祝：11:00/13:00/15:00 (各回40分)

●休演日：毎週火曜日 但し、5/5(火祝)は5/7(木)に振替。

●会場：野外民族博物館リトルワールド 野外ホール ●電話：0568-62-5611

## その他公演情報

★サクノキ ソロ公演 『長くつを履くまで』

沢入国際サーカス学校卒業生で、現在はキューブ・アクロバットやスタッフ、ハットジャグリングなどを行うサーカスエンターテイナーや道化師として大道芸やフェスティバル、舞台公演などで活動中のサクノキ、初のソロ舞台公演です。

●期間：2015年6月19日(金) 15:00/20:00、20日(土) 14:00/19:00

●チケット：前売2,000円 当日2,500円 ●会場：APOCシアター(小田急線「千歳船橋」駅徒歩1分)

●お問い合わせ：saku\_noki@yahoo.co.jp

★イル・スペオピーレ 『be Animal』

沢入国際サーカス学校出身者のみにより結成。現代サーカスのカンパニー、イル・スペオピーレ。

今回は演出の渡邊翼とジャグラーのハチロウのたったふたりによる、ジャグリングを基盤にしたサーカス作品です。ただ投げるではなく、ただ動くだけでもない。野生的にとげとげしくも、確かな技術に裏打ちされた本公演が放つ新たなサーカスの魅力にぜひ触れてみてください。

●期間：2015年6月26日(金) 19:00、27日(土) 14:00/18:00 ●会場：中野テルブシコール

●チケット：前売2,000円 当日2,500円 ●お問い合わせ：03-3338-2728 beanimal6@gmail.com

★京本千恵美ソロパントマイム公演 「ここはどこへ？」

人生が旅なのか、旅が人生なのか。一日が始まり、メモに書いていた今日の用事に取りかかる。外を出れば、今日はどこへ？ここはどこへ？

●期間：2015年7月4日(土) 18:30、5日(日) 14:00

●チケット：大人 前売2,000円、当日2,300円 高校生以下前売り1,000円、当日1,300円

●会場：天シアターやまんね(埼玉県秩父郡、横瀬町民グラウンド上)

●ご予約・お問い合わせ：chichibu.yoyaku@gmail.com TEL090-2145-1289(磯田)

★富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ「サーカス・バザール」

ひと夏ごとに盛り上がりが増す、感動と興奮の2日間！「地産地消」を合言葉に、市内の農作物や特産品を扱うバザールと、サーカスや大道芸人たちが多種多彩なパフォーマンスを繰り広げます。今年のショー(有料)には、世界で活躍するロックダンスユニット『Hilty&Bosch』が登場！ジャズ・ファンク・バンド『ブラックエレファント』の生演奏や、空中芸などのサーカスアクロバットも。

●期間：2015年7月11日(土)、12日(日) 両日ともに10:00～15:00 キラリ☆ふじみ全館で、かぼちゃサーカス団によるパフォーマンス(パレードや水上ステージ)が行われます。

●ショー(有料)：11日(土) 14:30 12日(日) 12:30 一般1,000円 中学生以下500円

●ジャグリングワークショップ：両日ともに11:30より30分間 料金500円 対象：小・中学生

●会場：富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ(埼玉県富士見市) ●お問い合わせ TEL049-268-7788

